2023年8月7日に、IPAからITパスポート試験のシラバスの一部改訂が公開されたわ。

生成AIに関する項目・用語例の追加などが目的とのことなのだ。

適用時期は、2024年4月の試験かららしいわ。

まだ時間はあるから、2024年度受験予定の方は余裕をもって準備できるのだ。

生成AIに関するサンプル問題は、2023年8月下旬以降に公開予定らしいわ。

公開されたら実際に問題を解く動画を作成するのだ。

今回の改訂で、次の用語が削除または訂正されていたわ。なお、全てストラテジ系だったわ。

【削除】  
・データのバイアス。(統計的バイアス、社会の様態によって生じるバイアス)。

【変更】

・AIを利活用する上で「留意すべきこと」。⇒AIを利活用する上で「の脅威」。

・負の事例の「概要」。⇒負の事例の「理解」。

・AI利用者の「悪意」によるバイアス。⇒AI利用者の「関与」によるバイアス。

次の用語が追加されていたのだ。

【ストラテジ系】

　（業務分析・データの利活用）

　・精度と偏り。

　・統計的バイアス。（選択バイアス、情報バイアスなど）

　・認知バイアス。

　（知的財産権）

　・著作権法

AIが学習に利用するデータ、AIが生成したデータについて、それぞれ著作権の観点で留意する必要があること。

　・産業財産権関連法規

AIが学習に利用するデータ、AIが生成したデータについて、それぞれ産業財産権の観点で留意する必要があること。

　（その他の法律・ガイドライン・情報倫理）

　・情報倫理

　AIが学習に利用するデータ、AIが生成したデータについて、それぞれ個人情報保護、プライバシー、秘密保持の観点で留意する必要があること。

　・エコーチャンバー。

　・フィルターバブル。

　・デジタルタトゥー。

（AI（Artificial Intelligence：人工知能）の利活用）

　・AI利活用原則。

　・生成AI。

　・マルチモーダルAI。

　・ランダム性。

　・AIサービスが提供するAPIの活用。

　・生成 AI の活用（文章の添削・要約，アイディアの提案，科学論文の執筆，プログラミング，画像生成など）。

　・AI の学習に利用するデータの収集方法及び利用条件，並びに出力リスク。

・AI の出力データにおける，誤った情報，偏った情報，古い情報，悪意ある情報（差別

的表現など），学習元（出典）が不明な情報が含まれる可能性。

・AI の出力に対する人間の関与の必要性。

・説明可能な AI（XAI：Explainable AI）

・ヒューマンインザループ（HITL）

・ハルシネーション

・ディープフェイク

・AI サービスのオプトアウトポリシー

【テクノロジ系】

（AI（Artificial Intelligence：人工知能）の技術）

・AI 技術（自然言語処理，音声・画像（静止画・動画）の認識・合成など）の基本的な考

え方，仕組み，基盤モデル，特徴

　・過学習

　・事前学習

・ファインチューニング

・転移学習

・畳み込みニューラルネットワーク（CNN）

・再帰的ニューラルネットワーク（RNN）

・敵対的生成ネットワーク（GAN）

・大規模言語モデル（LLM）

・プロンプトエンジニアリング

（情報セキュリティ）

　・プロンプトインジェクション攻撃

・敵対的サンプル（Adversarial Examples）

[ITパスポート試験シラバス（変更箇所表示版） (ipa.go.jp)](https://www.ipa.go.jp/shiken/syllabus/t6hhco000000p7kt-att/syllabus_ip_ver6_2_henkou.pdf)